

まぶ で KO SO!

過去の記事は  
こちら



年々増加子どもの16人に1人に

## 食物アレルギー 研究し、伝える

アレルギーとは、本来は体に害のない食べ物などに対して、体の免疫が強くなり反応してしまうことをいいます。特に食物アレルギーは年々増えており、2022年の公立学校の全国調査では、子どものおよそ16人に1人が食物アレルギーを持つことがわかりました。最近ではクルミのアレルギーが急激に増えており、最新の調査では2番目に多くなっています。

食物アレルギーがあると、学校や家庭で食事が制限されます。日本の食品表示は世界的に見ても厳密ですが、それでも表示義務があるのは包装された食品だけです。レストランや対面販売では、自分で原材料を確認

しなければならず、本人にも家族にも大きな負担があります。

岐阜大では、これまで主に卵や牛乳、小麦などについて、「食べて治す」という考えのもと、アレルギーのある食べ物から安全な量から少しずつ食べて、体を慣らしていくように取り組んでいます。ただし、重い反応が出ないように管理するためには、高い専門知識と経験が必要です。そのため毎年、市民公開講座などを通じて情報を発信し、アレルギーへの理解を広げる活動を行っています。今年も11月24日に開催します。

岐阜県は、全国的にみても小児のアレルギー専門医が多い地域です。私たちの調査では、学校で食物を除去している子どもの中で、専門医が多い地域ほど診断の確定につながる「食物経口負荷試験」を受けている割合が高いことが明らかになりました。そのため、どこに住んでも適切な医療を受けられるよう、専門医同士の連携を深めたり、専門ではない医師にも最先端のアレルギーの診療を学んでもらえるように講演会を行ったりしています。

一方で、学校での対応も欠か



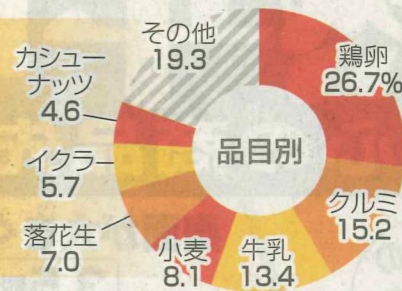
川本典生さん

せません。私たちの調査では、学校で起きたアレルギー症状の約8分の1が、その子にとって「初めての発症」である事がわかりました。この事から県内の学校では、食物アレルギーの緊急時を想定したシミュレーション訓練が広く行われるようになってきています。

さらに最近、乳幼児期に湿疹を徹底的に治療し、適切な時期に離乳食をはじめると、食

### 即時型食物アレルギーの原因食物

〔食物を摂取後60分以内  
に何らかの反応を認め、医療機関を受診した患者〕



物アレルギーを予防できることも分かってきました。本年度からは県と協力し、市町村の保健師さんを対象に、湿疹の対応方法やアレルギーの予防を学ぶ勉強会も始めました。乳幼児健診などを通して、アレルギーを防ぐ取り組みが地域にも広がっていく事を願っています。

診療し、研究し、そして社会へ伝えること。アレルギーで困

らない未来に向けて、私たちは一歩ずつ取り組みを続けています。アレルギーについて考えていただくきっかけになれば幸いです。

かわもと・のりお 岐阜



大医学部付属病院・小児科臨床教授、アレルギーセンター長。専門は小児アレルギー学。

※令和6年度食物アレルギーに関する調査研究事業報告書